

町外在住者の方々と対面聞き取りを進めています

このたび、日南町外に在住の山林所有者の方（国では、「不在村山林所有者」と表現されています）との対面聞き取りを進めています。これまで、おおよそ 20 名の方にお話を伺いました。いろんなご意見があり、おおまかに整理すると

- ・山林には多くの価値がある、今後も山林経営に努力する
- ・先祖から受け継いでおり、また、日南町にも愛着がある大事にしていきたい。
- ・普段は山林を所有していることを考えることはないが、こうやって、考えると、どうすればいいのか。
- ・山林経営は困難、処分したい。
- ・次の世代には引き継ぐ考えはない。
- ・次の世代は日南町への親しみも少ないので、どうしたものか。
- ・大事な財産、今後どうなるかわからない、できれば（是非とも）町に寄付したい等々のお話を伺うことが出来ました。

いずれも、「にちなんの森林（もり）だより」の情報発信、このたびの直接にお話を伺う機会を設けたことについて、これまでなかった取り組みに、ご理解・評価をいただいていることがわかりました。

まず第一に、薄まってゆく「故郷にちなん」「縁のあったにちなん」への意識が呼び戻されていること、あまり触れることの無かった山林林業の情報が少しでも伝わっており、山林に対しての意識（方向はともあれ）が出てきたものと受け止めています。

この中で、印象深く伺ったことがあります。

退職後、先祖の残された山林を熱心に管理経営されている方のお話です。

現在の林業施業への補助制度に対する提言（苦言）でした。

いまの間伐補助金の制度は変える必要がある。

間伐率「30%」として補助金が出ているが、これを「50%」程度まであげるべき。

現行の「30%」であれば、全伐するまでに、もう一度間伐し、最後に全伐することになる。

これでは、次の世代に財産も残すが、間伐作業もあわせて、引き継ぐことになる。

また、今は間伐材も加工により製品化されるので「量」を出したほうが収入になる。

「50%」の間伐だと、日当たりも良くなり、残った木の成長はめざましいものがある。